

15 関係機関・団体との連携に関する事項

1 校友会・親和会との連携

大学、校友会（卒業生組織）及び親和会（保護者会）は、龍谷大学の発展に資することを目的とし、毎年度、三者が連携した共催事業（以下「三者共催事業」）を展開している。

● 校友会との連携

学長・副学長・学部長が校友会各支部（41支部）に積極的に参加し、地域支部在住者との交流を積極的に図り、大学と校友とのつながりを強めることに努めた。また併せて校友会役員と連携し、370周年記念事業募金活動を展開した。

● 親和会との連携

大学と親和会との共催事業である全国保護者懇談会を全国29会場で開催した。学長、副学長、学部長を含む教職員が各会場に出席し、成績懇談、就職相談及び懇親会を実施した（出席者：2,642名）。また親和会は、保護者宛の成績表送付事業も支援している。

● 2009年度の特記事項

2009年度は、三者共催事業として、①全国8都市リレーイベントへの支援（参加者合計6,806名）、②在学生や保護者の就職支援に重点を置いた「大学懇談会」（参加者778名）、③校友や保護者が大学に集う「ホーム・カミングデー」（出席者1,111名）等を実施した。

● 創立370周年記念募金事業への協力

校友会及び親和会は創立370周年記念募金事業において、積極的に各会員へ協力を求め、「セミナーハウスともいき荘」の開設をはじめとした創立370周年記念事業の遂行に努めた。

2 浄土真宗本願寺派との連携

本法人の設置理念や寄附行為からもわかるとおり、浄土真宗本願寺派との関係は重要である。本法人の発展に係る歴史的経緯を見ても、人的・経済的な側面において浄土真宗本願寺派から様々な支援を受けており、今後も本法人が多様な展開を進めながら社会的支持基盤を確立していくために、浄土真宗本願寺派との連携を強化していくこととなる。

● 本学370周年記念事業及び親鸞聖人750回大遠忌への協力

本学は、2009年度に創立370周年を迎え、各種記念事業を実施した。また、浄土真宗本願寺派では、2011年に迎える親鸞聖人750回大遠忌に向けて「親鸞聖人750回大恩忌宗門長期振興計画」が策定されている。これらの事業において、双方が協力または積極的な連携により実現が可能な事業について、総合的な調整や意見の集約を行うために「宗学連携推進協議会」を設置しており、2009年度も、本協議会において、各種連携事業等についての検討を進めた。具体的には、宗学連携協議会及び「本願寺文化財デジタルアーカイブ事業推進協議会」及び「『龍谷ミュージアム』構想検討協議会」に本学教職員を派遣し、協議検討を行い、協力体制を強化した。

● 龍谷ミュージアム開設へ向けての協議の推進

2011年4月の龍谷ミュージアムの開設に向けて、宗学連

携推進協議会及びその下に置かれている「龍谷ミュージアム」構想検討委員会の構成員を中心に、仏教や本願寺等に関する学術資料や文化財の収集保存、調査研究、公開等に関して、協議を推進した。

3 龍谷総合学園との連携

親鸞聖人の精神・浄土真宗の教えを建学の精神とする学園が、それぞれの個性を生かしつつ、相互の連携を密にしながら発展することを目的に「龍谷総合学園」が組織されており、現在、25学校法人64校（6大学、2短期大学、26高等学校、14中学校、3小学校、13幼稚園）が加盟している。

● 龍谷総合学園学校間連携推進委員会等への参画

加盟校の学校間連携に関する諸事業を統括する中核機関として、「龍谷総合学園学校間連携推進委員会」が2006年に設置された。同委員会は、生徒・学生及び教職員の交流を通じ、総合学園と各学校の教育・学習活動の活性化を促すための事業の企画・推進を目的としており、本学は龍谷総合学園の中心校として、事業の企画・推進に携わった。今後も、各種研修会、研究会、協議会等にも積極的に参加し、龍谷総合学園の発展に寄与できるよう努めることとする。

● 龍谷アドバンスト・プロジェクトへの協力

龍谷総合学園が実施母体である「龍谷アドバンスト・プロジェクト」への担当講師や学生サポーターの派遣、科目提供や合宿研修時の指導等の協力を行なった。本事業は、高大連携事業として、e-learningによる教育素材を活用しながら、学校間の相互連携・人的交流を図りつつ、生徒の主体性を支援することを目的として実施されたものである。2009年度は、8月24日～26日に大宮学舎・深草学舎にて開催され、龍谷総合学園加盟校16校から生徒67名、教員16名が参加し、成功裏に実施された。

4 仏教系大学会議との連携

本学が加盟している「仏教系大学会議」は現在、64の大学・短期大学で組織されており、建学の理念を仏教におく全国の仏教系大学が、それぞれの個性を尊重しつつ各大学間の連携を密にし、各大学の充実発展を図るとともに高等教育機関としての社会的責務を遂行することを目的としている。

● 幹事校として参画

本学は、1994年の設立当初より幹事校（愛知学院大学、大谷大学、高野山大学、駒澤大学、淑徳短期大学、大正大学、兵庫大学、佛教大学、立正大学、龍谷大学）として参画しており、幹事である学長が本会議の運営に主体的に携わっている。本会議は毎年度、研修会の開催及び機関紙「如是我聞」の発行を行っており、2009年度においては、代表幹事校である大谷大学を中心に、立正大学を研修担当校、仏教大学を研修会場担当校として各事業を実施した。

5 その他

<私立大学連盟>

日本私立大学連盟（以下「連盟」という）は、私立大学の振興等を目的として設置された社団法人であり、現在122の大学が加盟している。本学は、教育研究環境の向上と経営基盤の確立に資することを目的に加盟しており、連盟の方向性や情報を敏速かつ的確に収集するために、積極的に諸委員等を派遣している。

● 諸委員等の派遣と研修事業等への参加

2009年度においても、私大連事業（研修等）への一般参画だけでなく、本学教職員を運営委員等として積極的に派遣した。主なものを以下に記載する。

- 教育研究委員会 FD推進会議運営委員会
(文学部准教授)
- 経営委員会財政政策スタディ分科委員会 (学長室長)
- 自己改革システム推進委員会 (研究部次長)
- キャリア・ディベロップメント研修運営委員会
(人事課長)

<大学コンソーシアム京都>

大学コンソーシアム京都（以下「コンソーシアム」という）は、「大学のまち・京都」の充実・発展を目的に、大

学間連携事業や産官学地域連携事業を展開する財団法人であり、京都地域の約50の大学が加盟している。本学は、コンソーシアムの設置当初から加盟しており、2009年度においても、学生の多様な学習機会を設けるべくコンソーシアムの各種事業を積極的に活用するとともに、諸委員等の派遣や専任事務職員の出向を通じて、コンソーシアムの運営に主体的に関わってきている。

● 2009年度の主な事業の活用状況

多様な学習機会等を提供するため、コンソーシアムが実施する単位互換制度（2009年度：本学からの派遣学生数255名、参考：他大学からの受入学生数628名）やインターンシップ事業（2009年度：本学の参加学生数113名）を積極的に活用した。

- 単位互換制度利用学生数：
本学からの派遣学生数255名 参考：他大学からの受入学生数628名
- インターンシップ制度参加学生数：
ビジネスコース96名、パブリックコース 11名、プログレスコース10名、合計：107名
- 京カレッジ利用学生数： 20名



龍谷大学 in KOBE でご講演いただく五木寛之氏



龍谷大学 in KOBE で演奏する本学吹奏楽部